

医療的ケア児の支援に関する課題についての意見（一部）

- 就学前の医療的ケア児の居場所が少なく、同年代の子どもと接したり集団生活をしたりすることによって成長する機会が与えられにくい。
- 医療的ケア児を受け入れられる保育所等が限られており、医療的ケア児の保護者の就労は非常に困難な状況である。
- 保育所等で医療的ケア児を受け入れるためには看護師の配置や設備面での配慮等が必要となるが、コスト面の問題や人材確保の難しさなどから、実現できない。
- 「医療的ケア」と一言でいっても、それぞれの子どもの状態や必要とするケアの内容はさまざまであり、年齢によっても変化する。それぞれの状態に応じた支援を行う必要があるが、それができる施設や事業所はわずかである。
- 地域の医療機関や訪問看護ステーション等のうち、小児対応が可能なところは限られているが、重度の障害児に対応できるところはさらに少ない。病院から退院して在宅生活をするために訪問看護ステーションを利用する場合でも、指示をしてもらう医療機関を見つけることが難しい場合も多い。
- 障害児の支援事業所等においても、医療的ケア児を受け入れられる施設は少なく、受け入れているところでも、適切な支援が行えていない場合もある。
- 保育所等において医療的ケア児を受け入れるために看護師を配置しようとしても、人件費や人材不足の問題があり、困難な状況である。
- 医療的ケア児を含めた重度の障害を持つ子どもの親は、子どもへの愛情を十分に持っていたとしても、毎日子どもの世話をすることで肉体的・精神的に疲弊してしまっている。支援する立場の人に、そういった親の声を直接聞いてもらう場をつくってもらい、実情を理解してもらった上で、支援策を実現してほしい。
- 医療的ケア児の支援の課題は多岐にわたるため、支援を行う側が優先順位をつけて、より緊急度の高いものから支援策を実現していく必要がある。